

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 5月 1日

事業所名 ILIS CLUB 松原

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係 で適切である	○		個室が3つあり、フロアも広々とした空間です。	
	2	職員の配置数は適切である	○		児童発達管理責任者1名、保育士4名、言語聴覚士 1名、児童指導員3名、運転手3名が在籍していま す。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の 配慮が適切になされている	○		スロープや手すりを配置し、段差も少なく、エレベ ーターが完備されています。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目 標設定と振り返り)に、広く職員が参画してい る	○		定期的に話し合いの場を設け、職員同士のコミュ ニケーションを大切にしています。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりア ンケート調査を実施して保護者等の意向等 を把握し、業務改善につなげている	○			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげている		○	第三者による外部評価は行えていませんが、社内 での内部監査を行っています。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機 会を確保している	○		社内全体・事業所内で定期的に研修を行っていま す。	
適切	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者 のニーズや課題を客観的に分析した上で、 放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するため に、標準化されたアセスメントツールを使用 している	○			
	11	活動プログラムの立案をチームで行ってい る	○		事業所会議・朝礼時・終礼時に活動プログラムにつ いて話し合いの場を設けています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫して いる	○		一人が決めるのではなく、毎日療育内容を定める職 員を変え、スタッフ間で話し合いをすることで固定化 しないようにしています。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ 細やかに設定して支援している	○		その日によって課題を変え、一人ひとりに合った目 標を決定しています。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
な支援の提供	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○	朝礼は毎日行い、その日のリーダーが主となって、支援内容を確認しています。		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○	終礼は毎日行い、当日出勤した職員で情報共有を行い、朝礼終礼ノートに詳しく記入しています。		
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○	業務日報だけでなく、朝礼終礼ノートにも支援内容や改善点など記入しています。		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○			
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	児童発達支援管理責任者またはマネージャーが出席しています。		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○	支援学校の説明会に参加し、地域の小学校とも細目に情報共有をしています。		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		医療的ケアが必要な児童は現在通っていないが、受け入れる場合もあるため、受け入れ体制を整えておきます。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		情報共有、相互理解を図れる園はあるが、相互理解が難しいこともあるので、積極的に情報共有を図っていきたいと思います。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		情報共有が出来ている児童もいれば、出来ない児童もいる為、全員が情報共有出来るよう、関係機関と関係性を深めていきます。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		全職員が様々な研修に積極的に受講しています。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		コロナ終息後、交流が出来るよう、関係機関との連携を引き続き行っていきます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		保護者様と出来るだけ、コミュニケーションを取るようになっています。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		ペアレント・トレーニングについて学ぶ機会を設け、知識向上を目指しています。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		見学や体験時、契約時に詳しく説明を行っています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者様から悩みや相談があった際は、しっかりお話を聞く時間をもち迅速に対応するようにしています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			現在はコロナで自粛していますが、終息し、安心できる状況下で開催したいと思っています。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		保護者様からの相談や申し入れには迅速に対応するようにしています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		おたよりやInstagramなどで活動の様子や行事予定などを発信しています。	
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報の漏洩を防ぐため、書庫に鍵をかけ、厳重にしています。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		視覚的に分かりやすく伝える事が出来るよう、配慮しています。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		コロナ流行の為、事業所行事への招待は出来ませんが、今後地域との関わりを持つ機会を増やしていきたいです
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		毎月、様々な災害を想定し、避難や防災、感染症などを想定した訓練を実施しています。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		毎月計画し、訓練を実施しています。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止委員会を設立し、定期的に全職員が虐待防止についての研修を必ず受講しています。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載して		○		身体拘束に対しては、保護者様と十分に話し合い、了解を得た上で支援計画に記載していきます。(現在は例がないです)
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		全児童に定期的のアレルギーに関するアンケートを取っています。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットがあった場合は、すぐに作成し、全スタッフに共有するようにしています。	